連合長野 国民運動・環境委員会
フォトニュース
2018年5月22日 第54号
発行：小林 和雄

国際協力田運動

5月19日(土)に安曇野田の田植えを実施

アフリカへ 恒例の田植え
連合長野 豊科の国際協力田で

連合長野は19日、安曇野市豊科南穂高に設けている「安曇野国際協力田」で恒例の田植えをした。JA長野県グループが、飢餓に苦しむ西アフリカのマリ共和国へコメを届けている活動に賛同し、毎年取り組んでいる。この日は加盟する労働組合の組合員や家族など35人が参加して、丁寧に手で苗を植えた。

休耕田を活用し、平成22年から米作りをしている。代かきを終えた田は5・4㌃あり、参加者は1列になって苗を1本ずつ植えながら進んだ。食糧不足の改善に役立つことを願い、農作業に汗を流した。秋には稲刈りもする。

連合長野松本広域協議会事務局長の木下信幸さん(59)＝松本市＝は「植えて刈り取るという体験があるので、支援に関わっていると実感できる」と話していた。収穫されたコメは、全国から集まった分と合わせて来年1月に同国へ発送される。

連合長野によると、マリは国内情勢が不安定で、干ばつにより慢性的な食糧不足が続いている。5歳までの乳幼児の死亡率が高く、医療や医薬品などの支援も必要という。

（浅井文人）

手作業で苗を植える参加者

5/20 市民タイムス

国民運動・環境委員会で御嶽山噴火災害犠牲者慰霊碑視察

５月２１日に王滝村の慰霊碑視察と木曽町で委員会開催